

ふうしゃだより

WINDMILL LETTER

2023.
10月号

皆様こんにちは。日本風力エネルギー(株)です。

10月に入り、朝晩の冷え込みが一段と感じられるようになり、紅葉前線が日本列島を南下していますね。鳥取県内での紅葉の見ごろは11月初旬とのことです。秋晴れの日には紅葉狩りに行くのもいいですね。

今月のふうしゃだよりは、鳥取大学三輪 浩先生より水災害対策に関して、お話を伺いました。



注目コンテンツ

- ・鳥取大学工学部 三輪 浩先生インタビュー
「風力発電所の開発はメリットだけでなく、懸念、対策など住民との丁寧な対話を欠かさずに」
- ・クリーンな未来を子どもたちへ～次世代育成支援や環境教育支援について～



弊社が計画しております「(仮称)鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できますと幸いです。環境影響評価方法書への知事意見として、「住民等一人一人にきちんと情報が届くように丁寧に説明をおこなうこと」が求められました。「ふうしゃだより」が情報提供の一端を担えるよう尽力してまいります。



クリーンな未来を子どもたちへ



再生可能エネルギーによる発電は、発電中に二酸化炭素を排出しないので、
クリーンな未来を子どもたちに引き継げることができると思っています。
日本風力エネルギーおよびヴィーナ・エナジーが未来のリーダーとなる子どもの育成支援や
環境教育などの取り組みをご紹介します。

「子ども食堂」への寄附

子どもの居場所づくりや食を通じた支援をしている「子ども食堂」、障がい児保育や子ども虐待問題の解決に取り組んでいる「フローレンス」などのNPOを支援しています。

鳥取県においては、子ども食堂の開設や運営、食材の提供・配送など、未来を担う子どもたちの健全な育成を支える取り組みをされている「えんたく」へ地元産のお米を寄付しています。

高校生向け、再生可能エネルギー 海外研修をスタート

再生可能エネルギー、持続可能な社会づくり、クリーンエネルギーの重要性を学ぶ短期海外研修プログラム「ヴィーナ・エナジー再生可能エネルギー海外研修forハイスクール」を本年よりスタートします。

記念すべき第1回目となる今年は、青森県、宮城県、神奈川県、新潟県、福井県、滋賀県、京都府から15名の高校生が参加。



出張授業を開催

今年7月、従業員による出張授業を、3年ぶりに対面で実施することが出来ました。

青森県七戸町の小学校3校(4、5、6年生)、中学校2校(2年生)の生徒の皆さんと一緒に電気を作るための原料や再生可能エネルギー、電気の大切さについて学びました。



スポーツチームとのイベント開催

地元スポーツチームとのコラボレーションにより、子どもたちが楽しめるイベントを開催しています。

鳥取県内においては、プロ3×3バスケットボールチーム「鳥取ブルーバース」とイベント開催しました。



東京大学「ヴィーナ・エナジー奨学金」を設立

「ヴィーナ・エナジー奨学金」は、理系分野における男女共同参画や姿勢エネルギー業界における次世代育成を図る目的で設立されました。

本年、新たに2名の工学部の学生へ奨学金を提供しました。



話題のインタビュー

風力発電所の開発は
メリットだけでなく、懸念、対策など
住民との丁寧な対話を欠かさずに
水災害対策は、国、自治体、住民、
企業あらゆる関係者が協働する
「流域治水」へ



鳥取大学学術研究院工学系部門
教授

三輪 浩 先生
みわ ひろし

専門は水工水理学。
鳥取県土砂災害警戒情報検討委員会委員、国
土交通省日野川河川事務所日野川流砂系総合
土砂管理技術検討委員会委員長、土木学会水
害対策小委員会委員等を務められています。
土木学会、砂防学会、国際水圏環境工学会
(IAHR)などの学会に所属されています。

Q 山の尾根筋に建設する風力発電所に対して、住民の方からは土砂災害への懸念の声を多く頂きます。対策などについて、どのように説明を差し上げると分かりやすくなりますか。

A

住民の方は、人為的構造物である風力発電施設にともなう森林伐採や工事道路の建設などが土砂災害などに影響するのではないかと懸念されているのだと思います。

雨が降ると、水分は山の保水能力により一時的に森林土壌に保持され、その後徐々に地下に浸透したり河川に流出したりします。大雨などで山の土壌雨量が多くなると、風力発電施設が悪影響を及ぼさない対策を取ることが重要であると思います。

風力発電施設の建設において、のり面の緑化（斜面表面を植物を植え、根づかせることで、土砂流出の予防を図る）や沈砂池（土砂などを沈殿させるための池。土砂が下流に流れ出すリスクを低減させる池）などが設置されると思いますが、風力発電施設を建設することで、どのようなこと起こる懸念があるのか、その懸念に対して短期的及び中長期的にそれぞれどのような対策を取るのかをきちんと丁寧に説明し、理解を得ることが大切だと思います。

Q

政府（国土交通省）が進めている「流域治水」について教えてください。

A

国土交通省は、気候変動等による水災害の激甚化・頻発化等が見られるため、集水域から氾濫域にわたる流域全体の関係者（国、地方自治体、企業、住民）が協働し、治水対策を図る「流域治水」を進めるように法律を改正しました。

これまでの治水計画は、洪水、内水氾濫、高潮・高波等の対策は過去の降雨や潮位などに基づいて計画されてきました。一方、これからの治水計画は気候変動による降雨量の増加や潮位の上昇などを考慮したものに直すこととされたのです。

また、企業や住民を含むあらゆる関係者を治水対策の推進主体に据えたことに特徴があります。

また、大雨等が土砂流出や洪水を誘発し災害を引き起こす連鎖を断つ手段を防災対策と呼びますが、その基本は自助・共助・公助であり、これらの観点に立って水災害対策を強力に推進することが示されています。

Q

「流域治水」において、風力発電所が寄与できることはあるでしょうか。

A

風力発電所は20年、30年と長期に稼働すると思います。そのような長い期間においては、例えば、30年に1度、50年に1度と言われる豪雨が発生することもあるでしょう。そのようなことを想定して、風力発電所を建設、運営する事業者がどのように地域と協働していくのかを考えるとともに、事業前よりも治水機能を向上させることが出来れば、結果として流域治水に貢献できるのではないかと思います。

